

こんにちは 松坂みち子 です

日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 232 2015.7.8 連絡先 402-1622 >



中卒まで医療費無料を 中村あさと議員

中村市議は、中学校卒業までの医療費無料化を求める署名46624人分が尾花正啓市長に提出されたことを示し、実現を迫りました。

市長は「何とか実施したいとの思いで、国の動向も踏まえ、10月に策定する和歌山市版総合戦略計画の中で結論を出したい」と答弁しました。

中村市議は、公務労働で広がるワーキングプアの実態をただし、「正規雇用が大前提。均等待遇という点でも改善が求められる」とただしました。

川端康紀総務局長は、「非常勤職員等の処遇については、その業務にふさわしい条件となるよう、改善に努める」と答弁しました。

減り続ける公衆浴場の問題で立本治健康局長は、「公衆浴場組合や経営者とも相談し、現状のまま存続できるように努めたい」と答弁しました。

戦争法案止める責任 森下さち子議員

森下市議は、戦争法案について、元法制局長官が「国民を守るというより国民を危険にさらす」と結論付けたことなどを紹介し、同法案は廃案しかないと力説。「時の政権が戦争に向かって暴走するときには地方自治体の長は国民主権の立場に立ってこれを止める責任がある」と迫りました。

尾花正啓市長は、「安全法制に関わるものであることから、意見を言うことは差し控える」と態度を明らかにしませんでした。

マイナンバー制度について、年金漏えい事件などを示し、マイナンバー制度によるプライバシー侵害について「あまりにもリスクが高い」と導入に反対しました。

市長は「マイナンバー制度は安全なものとして理解しており、予定通り実施したい」と答弁しました。

みち子のひとりごと ぜひご参加を

で戦争を放棄した国です。最近の世論調査では、この法案は憲法違反だとの声が半数を超えており、その割合は増えていきます。次の世代へ、戦争しない国日本をそのまま手渡していくためにも、和歌山からも戦争法案反対の声を大きく上げましょう。たくさんの方のみなさんの参加をお願いします。

松島バス停、中之島などから専用のバスが出ます。詳しくはお問い合わせください。(0990-1702-7310 松坂)

自衛隊を海外に派遣し、戦闘行為を行わせるためのこの法案は、日本を戦争する国に作り変えてしまします。日本は太平洋戦争の反省のもと、憲法

もう一度、お知らせさせていただきます。

12日(日) 15時から
西の丸公園で
安全保障法案(戦争法案)反対の集会&デモ行進(集会だけの参加も大歓迎)
主催は和歌山弁護士会



熱い心で 大門みきし 物語



大門さんは1956年、京都市に生まれました。母キヨ子さんは女手ひとつで4人の男の子を育て上げました。昼はスーパーで荷出し、夜は先斗町（ぼんとちょう）の料亭で仲居として働きました。帰ってくるのはいつも大門さんが眠ったあと。小学3年のころの思い出を「しんぶん赤旗」で語ったことがあります。 - 未っ子で甘えん坊の私は、母に会いたくて、夕暮れ時の鴨川沿いを1時間ほど歩いて、母の働いている料亭の前まで行きました。私を見つけると母は表に出てきて、「よく来たね」と笑って頭をなで、「早くお帰り」と電車賃を握らせました。私が「一緒に帰ろう」と言うと、強く抱きしめてくれました。そんなことが何度かありました。そんなことが何度かありましたが、母は一度も私をしかりませんでした。（10年5月8日付「母の日」特集から）

キヨ子さんは65歳で亡くなりました。大門さんが楽をさせてあげようと思っていた矢先でした。生前「しんぶん赤旗」をみながら、「みきしは弱い人の味方やね」と言いました。大門さんは言います。「自分がなぜ共産党に入ったのかを思うとき、子どものために身を削って働いた母の絵が浮かびます。社会と政治が、母のような女性をもっと助けてあげてほしかった。そういう政治にしなければ」。

前略



「戦争の放棄」の項目から一部、ご紹介します。

今度の憲法では、日本の国が、決して二度と戦争をしないように、二つのことを決めました。その一つは、兵隊も軍艦も飛行機も、およそ戦争するためのものは一切持たないということです。これから先日本には、陸軍も海軍も空軍もないのです。これを戦争の放棄と言います。「放棄」とは捨ててしまうことです。しかし皆さん、決して心細く思うことはありません。日本は正しいことをほかの国より先に行ったのです。世の中に、正しいことぐらい強いものはありません。

もう一つは、よその国と争い事が起こったとき、決して戦争によって、相手を負かして、自分の言い分を通そうとしないということを決めたのです。穏やかに相談して、決まりをつけようというのです。なぜならば、いくさを仕掛けることは結局、自分の国を滅ぼすような羽目になるからです。また、戦争とまで行かずとも国の力で相手を脅すようなことは一切しないことに決めたのです。これを戦争の放棄というのです。そうしてよその国と仲良くして世界中の国が良い友達になっ てくれるようにすれば、日本の国は栄えてゆけるのです。

みなさん、あの恐ろしい戦争が、二度とおこらないように、また、戦争を二度とおこさないようにいたしましょう。

松坂もチケット持っています。090 - 1702 - 7310 までどうぞ。



戦後70年特別企画 前進座公演
「南の島に雪が降る」 原作・加藤大介
 7月23日（木）14時開演（開場13時30分）
 和歌山市民会館大ホール
 死線をさまよう兵士たち 生きる希望は...芝居！
 命がけで芝居を創り、命がけで芝居を見た、